

# 連載 講座

## 地域防災実戦ノウハウ(31) —実践的な防災訓練を目指して (その8)—

Blog 防災・危機管理トレーニング  
主宰 日野宗門

今回は、状況付与型意思決定訓練の充実方策について考えてみます。

### 1. 付与状況シナリオのねらいを書き出す

状況付与型意思決定訓練では、付与すべき状況のシナリオ(以下「付与状況シナリオ」という。)の適否が訓練効果を大きく左右するだけに、それをどのようなものとするかで悩む訓練企画者は多いようです。

ところで、訓練企画者の方々は付与状況シナリオをどのように作成しているのでしょうか。

地震災害の記録や報告書などにあたり、しみながら、「地震時には、こんなことがありそうだ」ということで決められている関係者も多いと思われます。

それはそれで良いのですが、そこに止まらず、「そのシナリオで、どのような意思決定能力の向上や課題発見をねらっているか」をメモのような形で整理することをお勧めします。

その作業により、シナリオが洗練されるとともに、意思決定訓練が一層充実したものになります。

例えば、△△町における状況付与型意思決定訓練で、次のような付与状況シナリオが用意されたとします。

〈付与状況シナリオ〉

現在までの管内(△△町内)の住家被害状況は、概数で全壊○棟、半壊○棟である。特に町北部の□□地区での被害が大きい模様である。

そして、このシナリオでのねらいを、例えば下記のように書き出し、整理しておきます。

このようにしておくこと、訓練参加者がとった対応の妥当性の評価を容易に行えるようになります。

〈ねらい〉

- 本部員会議において自衛隊の派遣要請（依頼）の可能性をも含めた検討を円滑に行えるか
- □□地区における避難所の開設の要否判断と避難所開設担当者への連絡が適切に行えるか
- 上記被害数は災害救助法の適用申請基準を上回るものである（と仮定します）が、そのことを関係者が認識できるか
- 本部員会議で災害救助法適用申請に係る意思決定（手続き）を円滑に行えるか
- 災害救助法に係る事務等の主管課において災害救助法適用を見越した準備（事務処理方法、記録等）に適切に移れるか

現実には、訓練の準備に追われ、シナリオを用意するだけで手一杯であると思われかもしれませんが、シナリオのねらいを書き出すことにより、問題意識が鮮明となり、シナリオの改善、訓練効果の向上が期待できるようになります。

状況付与シナリオの全てについてこのようなものを整理することが無理であれば、一部でもよいですから実践されることをお勧めします。

## 2. 訓練時にはしっかりメモを残す

いよいよ訓練が始まりました。訓練実施中は、付与された状況に対しどのように対応したか、関係機関へはどのような活動を要請したか（又は、情報を伝達したか）などのメモや記録を作成します。その一部は訓練手段としても活用されます。

これらのメモ等は訓練では必須というべきものですが、これら以外にもメモで残して欲しいものがあります。それは、付与状況への対応に際して「こんな対応で良いのかなあ」とか、関係機関へ活動を要請したとき「要請手続きはこれで良かったのかなあ」とか、逆に要請を受けたとき「どうしてこの機関からこういう要請が来るのだ」といった疑問です。

訓練が終わると「終わった、終わった!」ということで安心される人も多いのですが、メモに残された疑問はできるだけ早いうちに解消することが大切です。

直ぐに解消できないような疑問、自分たちだけで解決できない問題は、後日の反省会等に提出するなどして解決策を検討することが必要です。

### 3. 疑問や問題を未消化のままにしない

訓練終了後は、訓練参加者にアンケートを行ったり、あるいは日を改めて反省会を開催するなどにより、訓練で得られた疑問や教訓を整理し、解決策を検討する必要があります。

特に反省会は、2 でメモした疑問のうち自分たちだけで解決できないものを検討する良い機会です。十分な時間を確保し、積極的に意見交換を行うことが望まれます。そのことにより、訓練から得られる成果はさらに豊かなものになります。

また、日寺問をかけて検討する必要がある課題等については、研究会などを設けて検討するのも一法と思います。

重要なことは、訓練から得られた疑問や問題を未消化のままにしないということです。

### 4. 得られた問題・課題及び定式化された活動要領等を整理、更新する

防災訓練に関しては次の2つの問題もゆるがせにできません。

#### ①「総力戦」体制の確立に関する問題

大規模災害には、全職員が丸となり対応する必要があります。いわば、「総力戦」体制が求められます。この観点からすると、職員の大多数が訓練に参加し、技能を向上させるのが望ましいということになります。しかし、現実にはさまざまな制約条件から防災訓練の多くは訓練参加者が限定されています。

この問題の解決策の一つは訓練の実施回数を増やすことですが、訓練の準備等を考えた場合には実施回数にもおのずから限界があります。

#### ②防災対応力の維持に関する問題

もう一つの大きな問題は、「訓練で培った防災対応力が異動のたびに大きく低下する」というものです。これは、「異動で部署が変われば必要とされる技能の内容が変わり、それまでの(訓練で向上させた)技能はあまり役に立たなくなる」ということが主原因です。

上記の二つの問題を解決するには、防災訓練を通じて得られたさまざまな疑問、問題、課題及びそれらの検討結果を受けて定式化された活動要領等を訓練未参加の職員や異動した職員が共有・追体験できるような形(冊子やファイル等)で整理する必要があります。

さらに、訓練を実施することに内容を追加・更新することが大切です。この作業を継続することにより、実践的な「総力戦」体制や防災対応力の維持が可能になると思われます。